

日本労働年鑑 第57集 1987年版  
The Labour Year Book of Japan 1987

第三部 労働組合の組織と運動

II 労働組合全国組織の動向

4 統一労組懇

4 政党との関係と選挙へのとりくみ

政党支持問題

統一労組懇は、既存のナショナル・センターや労働組合の多くに見られる「特定政党支持」方針に強い批判的見解を示しており、みずからは、「政党支持の自由」の方針を打ち出している。つまり、「政党からの独立」、組合員の政党支持の自由を保障することであるが、同時に重要なことは、革新政党との一致した要求にもとづく協力共同をすすめることも方針としていることである。

ただ統一労組懇と政党との関係については、統一労組懇の外部から、「統一労組懇は共産党の介入、指導によって動いている」との批判がしばしばおこなわれている。これにたいし統一労組懇は、政党には労働組合運動について意見を述べたり、評価をおこなう自由があること、政党が出した意見について、労働組合が自主的に取捨選択し、かりにその政党の意見主張から学び、それと合致した方向をとったからといって、それを政党の介入、指導などといえるはずがないと反論し、前記のような批判にたいし、まったく根拠のない、統一労組懇への中傷だとしている。

諸選挙へのとりくみの関係

「政党支持の自由」の方針にたって、国政選挙では、組合自体としてはどの政党、候補をも推せんしていない。そして、組合員の政党支持の自由の原則にもとづき、特定の政党や候補を支持・推せんする者たちが集まって、組合とは別に、後援会等をつくり、そこで活動している。この点、地方議員選挙の場合も同様である。

ただ地方首長選の場合、統一戦線促進の一環として、革新統一候補を推せん・支持するケースは多い。この場合「革新統一」の意味については、単に政党間の統一だけに基準をおくのではなく、もっと広く革新諸勢力の共同、結集といった観点から把握している。

日本労働年鑑 第57集 1987年版

発行 1987年6月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 労働旬報社

2001年8月1日公開開始

